

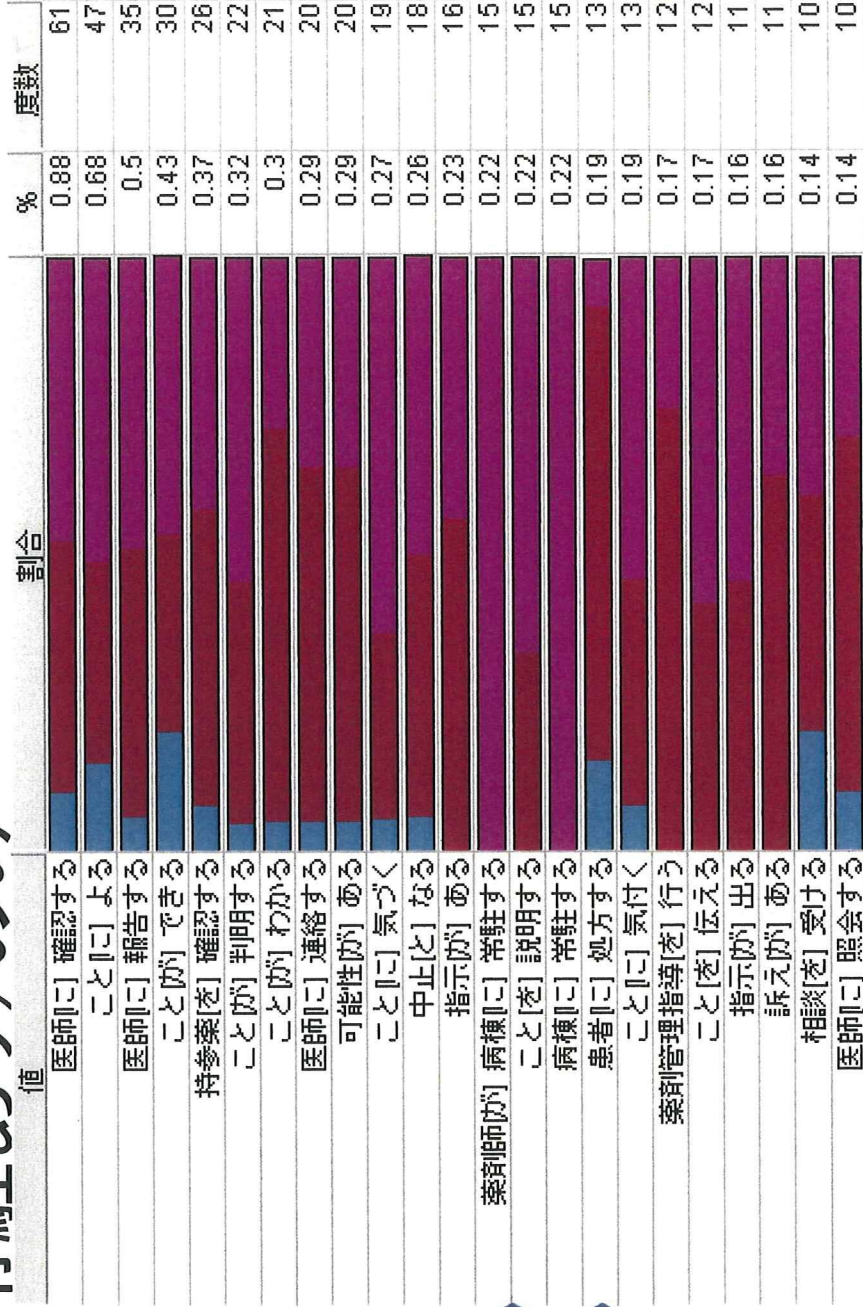
解析方法3-1

- 解析1で対象となった6000件の報告と解析2で対象となったデータとに共通して現れる施設を抽出(263施設)
- 解析1同様、助詞を手がかりに動詞と名詞の関係をもとに記述内容を整理・集計

病棟常駐・定期訪問クラスターと記述の

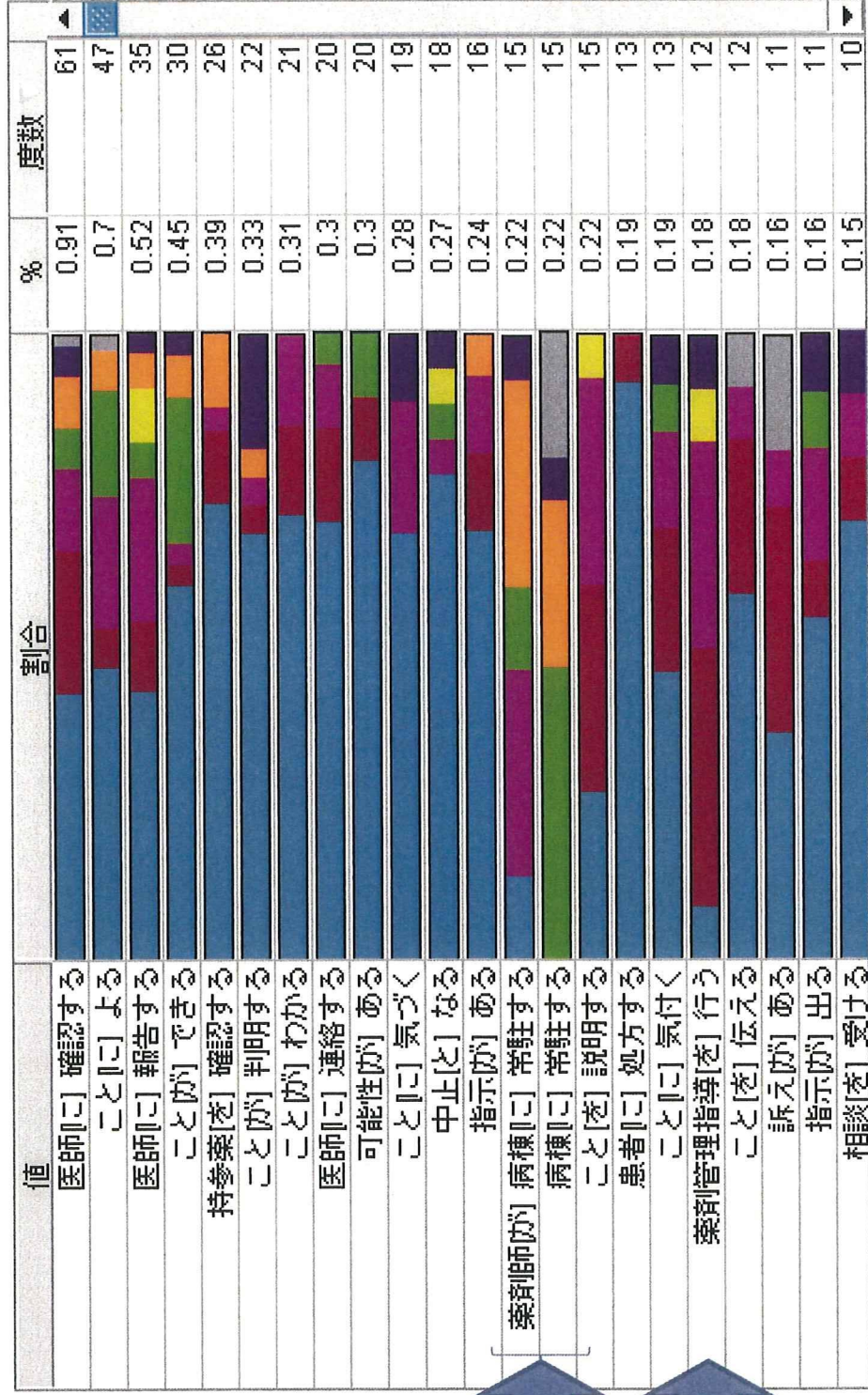
関係

- 「(薬剤師が)病棟に常駐する」はクラスター-3 (常駐あり)のみ



(上位のみ)

インシデント減少種別と記述の関係



インシデントが減少している報告では病棟常駐や薬剤管理指導について直接言及している割合が大

インシデント減少種別



病棟常駐による効果についての記述

- 以下の条件で報告の文章を抽出
 - ‘病棟[に] 常駐する’
 - ‘薬剤師[が] 病棟[に] 常駐する’
 - ‘薬剤師[が] 病棟[に] いる’
 - ‘病棟[に] いる’
- 19施設が抽出された
 - 4施設以外では病棟直接交付・配薬カートセット・1回量調剤のいずれかでインシデントが減少していると報告
 - 45レコード
 - 具体的な記述は別表

病棟常駐による効果についての記述

- 以下の記述が見られる
 - － 持参薬管理
 - － 投与ルート等についての医師・看護師への情報提供
 - － 処方変更の提言
 - － 配薬カーットのセット
- また、患者の様子を目視で確認することによる効率化・安全性の向上についての言及が見られる

「回避する」「回避できる」「避ける」

- これらの動詞が含まれる報告はインシデントを避ける話題が多いが、この動詞を含む報告を行っている施設でインシデント種別が000であるものが多い



- 調査項目に入れるべきインシデントの種類を増やしてその程度を知るためにも調べる必要有り

値	割合	%	度数
未然[を]回避する		7.41	4
不利益[を]回避する		5.56	3
重複投与[を]回避する		5.56	3
可能性[を]回避できる		3.7	2
副作用[を]回避する		3.7	2
重複投与[を]避ける		3.7	2
未然[を]回避できる		3.7	2

⋮

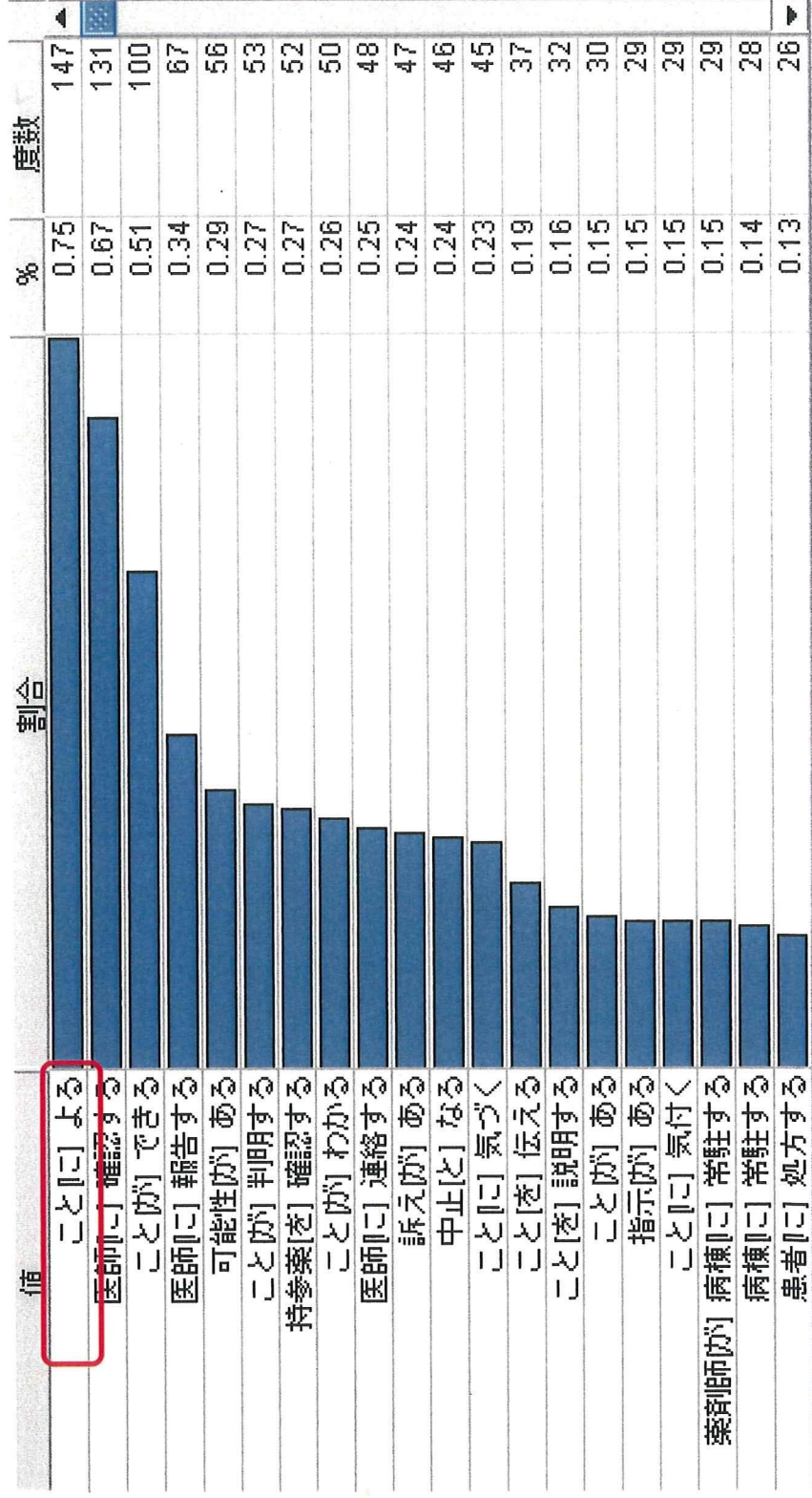
値	割合	%	度数
000		50.0	27
001		16.67	9
010		14.81	8
011		3.7	2
100		1.85	1
101		3.7	2
110		7.41	4
111		1.85	1

解析方法3-2

- 解析1で用いたデータから病棟薬剤師が実施している安全性に寄与する行動(工夫)の抽出を試みる
 - 6000件全部を対象に
- 「～ことにより」「～ことで」「～ことによって」を含む回答を抽出
 - 「こと」に係る文構造を出力
 - 表現の揺れや記述の粒度の差が大きいため、集計して件数を出すのではなく、文構造を単にソートして提示
- 結果は別表にて

「ことにより」

「〇〇(する)ことにより……」という文が多いことが伺える
 → 安全性向上のために薬剤師がしたことが示されていると
 考えられるため、これを含む文を対象に



結果に見られる特徴的な点

- 他職種・患者・家族への「迅速な」対応・情報提供
 - 患者の様子・訴えを直接知ることが出来ることによる
 - 医師・看護師の負担の軽減
 - 迅速な情報提供によるインシデント防止件数のカウントも必要？

